

夏休み子ども俳句教室を開催

自然の中で俳句を作ろう！

文化振興課 ☎(88)9172



子どもたちが詠んだ

俳句を紹介します

(芭蕉記念館に展示しています)

- なつのあめうえみてあめをのみこんだ
幼稚園 阿部 心咲
- あめのなかせみのぬげがらふわふわだ
幼稚園 本田 悠晴
- まつしろいゆりがさいているきれいだね
第一小1年 本田 樹
- なつのあめかさにはつぼつおちてくる
阿武隈小1年 小松 駿斗
- きこえたよせみのなきこえむこうから
仁井田小1年 五十嵐 心
- なつのきはみどりあざやかあめのなか
長沼小1年 鈴木 美月
- ゆりの花うしろむいたよしらんぶり
第二小2年 阿部 愛莉夏
- 雨の日だあれもないキャンプ場
第二小2年 伊藤 豪
- つゆの中ウッドチップがやわらかい
第二小2年 小林 璃子
- 夏休みウッドチップの森のみち
西袋一小2年 佐藤 愛莉
- 手火花がとくべつきれい夜の音
阿武隈小3年 小池 夢逢
- 友達と一しょに歩いた夏木立
第二小4年 伊藤 滯
- なぞのむし小さく黒くまるくなる
第二小4年 児玉 達哉
- アメンボのスケート場は水たまり
第二小4年 町田 惇十
- せみの声朝からつづくコンサート
第三小4年 橋本 春人
- あじさいのすがたあざやか森のスター
阿武隈小4年 小池 汰嘉
- 草むらをかくれさまよう夏のちよう
柏城小4年 千田 侑樹
- せみの声林のおくの山の道
柏城小4年 松本 咲希
- 山の水さわって遊ぶ子どもかな
西袋一小5年 遊佐 和貴
- 木の下に顔のまっかな梅雨きのこ
柏城小5年 新井 大樹
- つゆきのこ音楽きいてねむってる
柏城小5年 石井 晴音
- 声たてず空をみちびくオニヤンマ
柏城小5年 宗像 勇太
- 葉の上せみのぬげがらわらつてる
白方小5年 木船 瑛太
- ゆりの花三つそろってゆれている
第二小6年 永山 幸奈
- さびしさに一人たたずむ夏こだち
第二小6年 西村 怜太郎
- ゆりの花三年たつて三つ咲く
第二小6年 米倉 美瑚
- 夏の木のあいだに見えるクレーン車
柏城小6年 酒井 聡
- カメラには豊かな緑映りこむ
柏城小6年 千田 紗矢香

7月24日、25日の両日、市民の森で平成29年度夏休み子ども俳句教室を行いました。参加した子どもたちは、自然の中で楽しく俳句を作りました。

本年度は市民の森で

昨年度までは須賀川牡丹園で行っていましたが、本年度は自然の中で俳句を作ってみようと、市民の森で開催しました。

24日は低学年の部(小学1年生、3年生)、25日は高学年の部(小学4年生、6年生)を行いました。

自然の中で俳句作り

市民の森管理棟の多目的ホールで俳句の約束ごとを学び、いよいよ俳句作りです。森の中を散策しながら、俳句の素材を見付けて作りました。

雨が降っていた24日は、雨の日ならではの景色や音の響きを発見。25日は雨が上がり、鮮やかな緑の中で、俳句作りを楽しみました。

俳句作りが終わると、自由に想像した17文字の言葉を使う「俳句あそび」をしました。会場は笑い声であふれ、子どもたちは俳句作りを満喫した一日を過ごしました。

参加してみても感想は？

- 参加者の皆さんから、次の感想が寄せられました。
- 自然の中の俳句作りが楽しかった。
- いい俳句ができた。
- たくさん俳句を作って、花丸をいっぱいもらって、とてもうれしかった。
- 初めて参加して、最初は作れるかドキドキしたが、10個も作れてうれしかった。
- 1年生から毎年参加している。来年中学に行っても参加したい。
- 俳句あそびが面白かった。
- キャンプには来ることはあるが、ここで俳句教室をやるとは思わなかった。
- 子どもがとてもいい顔をしていた。(付き添い人)

俳句の先生から

- 2日間を通して、桔槔吟社の江藤文子さん、深谷栄子さん、丹治道子さん、佐藤秀治さんにご指導いただきました。
- 頭の中だけで考えるのではなく、実際に見たことや感じたことの「自分だけの発見」が工夫され、素晴らしい句がたくさんできて驚きました。
- 普段暮らしている中に驚くことや



詠んだ句を参加者の前で発表しました

須賀川は 俳句が盛んなまち



面白いことがたくさんあります。よく観察し、自分だけの発見をし、感動をしましょう。それが俳句を作る上でとても大事なことです。

- 子どもは、ものの本質を素直に言い当てます。大人には難しい、子どもの柔らかなものの見方、感性を大切にしてください。それを中学生になっても大事にしてください。

須賀川は、今から300年以上も前に、松尾芭蕉と弟子の河合曾良が「おくのほそ道」の旅の途中、8日間滞在したまちです。芭蕉の旅は、古人に詠まれた歌枕や名所を歩くこと、地方にいるたくさんの俳人と句

市民の森ならではの体験も

俳句教室では、市民の森の整理材木などを使った木工クラフトも行いました。福島県もりの案内人の石井義輝さん、大八木健治さんとクマのオブジェを作成。「かわいいクマの置物が作れてうれしかった」と感想が聞かれました。自然の中での俳句作りと木工クラフトを体験できて、大満足の様子でした。



を詠み合うことが目的でした。当時、須賀川は商人を中心に俳諧が盛んに行われていました。相楽等躬はその中心的人物で、芭蕉はかねてからの知人であった等躬に会うことを心待ちにしていました。

須賀川では、神社仏閣を見て回ったり、句会を開いたりしました。現在も芭蕉が詠んだ俳句の句碑が、十念寺、可伸庵跡、乙字ヶ滝に残っています。

その後も、藤井晋流や石井雨考、市原多代女などにより脈々と俳句文化が受け継がれました。須賀川は、今もなお俳句が親しまれている「俳句のまち」です。